



MITSUI & CO.
Seafoods

三井物産シーフーズ株式会社
Mitsui & Co. Seafoods Ltd.

会社案内



ごあいさつ

当社は三井物産グループの生鮮・水産品を扱う食料専門商社です。前身の東邦物産㈱が1958年に設立されて以来、三井物産グループの総合力とグローバルな調達力を活かし、取引先への価値提供を通して「信頼」を築いてまいりました。三井物産㈱との商品領域毎の連携を一層太くし、機動力・専門性を一層高め、グローバルでの商品調達力・販売力を強化するために、2022年7月、生鮮・水産事業と農産事業で分社し、三井物産シーフーズ株式会社を設立し新たなスタートを切りました。

当社の経営理念は、サステナブルな食の安全・安心・安定供給を通じて人々の豊かな生活に貢献することを目指し、顧客ニーズ対応型商品プロ集団として顧客満足度の向上と価値創造に努めることです。商品の確保・調達・流通においては、社会・地球環境・サステナビリティ・食の安全を重視しており、例えば「商品開発・品質管理センター」を設置するなど、厳正なチェック体制を構築しております。また、経営理念の土台となる行動規範として、With Integrity(真摯に誠実に)と「挑戦と創造」の精神を重視し、変革と成長、自由闊達なコミュニケーション、及び主体的で生き活きとしたアクションを通して組織力向上に努めることを社員一同で共有しております。

水産市場は世界的に拡大し、水産タンパク質の重要度が益々高まる中、人々の豊かな生活に貢献するため、そして取引先及び社員の幸せのため、弛まぬ努力と挑戦を続けてまいります。

三井物産シーフーズ株式会社 代表取締役社長
井上 裕規



経営理念

MISSION / 企業使命

サステナブルな食の安全・安心・安定供給を通じて人々の豊かな生活に貢献します。

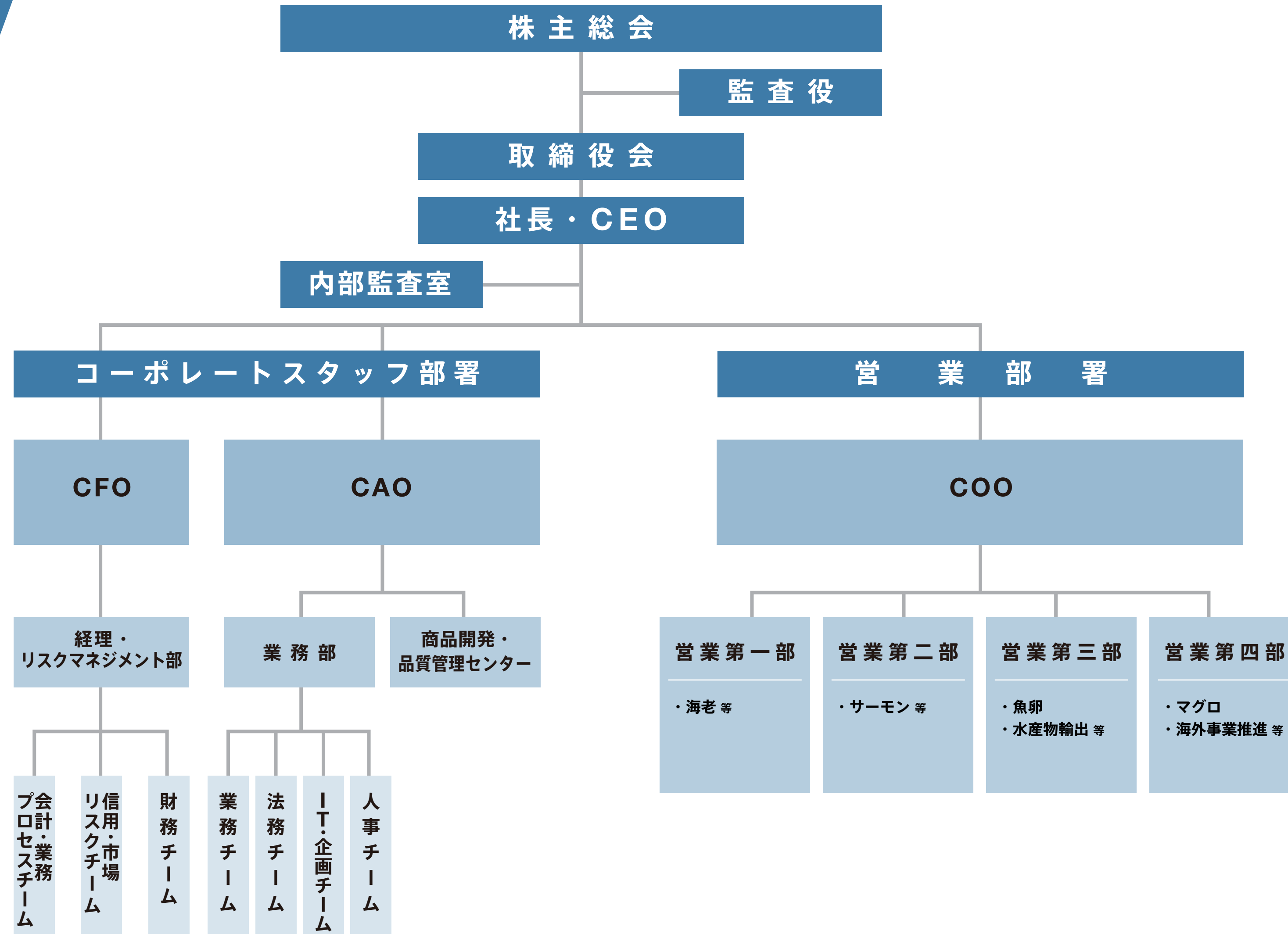
VISION / 目指すべき姿

三井物産グループの総合力・ネットワークを活かし、顧客ニーズ対応型商品プロ集団として顧客満足度の向上と価値創造に努めます。

VALUES / 価値観・行動指針

With Integrity(真摯に誠実に)重視し、「挑戦と創造」の精神で、変革と成長、自由闊達なコミュニケーション、そして主体的なアクションにより組織力向上に努めます。

三井物産シーフーズ株式会社組織図



役員

代表取締役社長	井上裕規
取締役常務執行役員 COO	桐畑二郎
取締役常務執行役員 CFO	川内 新
取締役執行役員	飯塚正章
取締役（非常勤）	吉里 格
取締役（非常勤）	鈴木義明
監査役	丸岡利彰
執行役員	栄桂一郎
執行役員	熊澤 努



三井物産の DNA が息づく 生鮮・水産品を取り扱う食料専門商社、 三井物産シーフーズ株式会社。

1947年、戦前の三井物産の有志を中心に東邦物産が設立されて以来、私たちに受け継がれてきたのは三井物産グループのDNAです。2005年のサーモン事業を手始めに、水産事業が、三井物産株式会社から次々に東邦物産に移管。そうした過程を経て、私たち三井物産シーフーズは食料専門商社としての基盤を強化してきました。これからも私たちは三井物産グループの有する世界規模の情報収集力、ネットワークを有効に活用しながら、安全・安心な水産物の安定供給を実現していきます。

CHANGE TO CHANGE

堅実なスタイルと新しいアイデアで世界の食をつなぐ。

三井物産グループのサプライチェーンの中で 私たちができること。

食の生産・集荷・製造・加工にわたってグローバルなビジネス基盤を構築する、三井物産グループ。そのビジネスモデルは生産地への出資、食ビジネスの事業化へと大きくシフトするとともに、養殖池や加工工場でのデジタル技術・AIの活用や、養殖池から販売にいたるサプライチェーンの見直し・効率化を積極的に推し進めています。そうしたなか私たちは、三井物産グループの有するサプライチェーンを活用したビジネスフローを積極的に構築。単に原料供給にとどまらない新規ビジネスの創造を仕掛けていきます。



事業概要

私たちが取り扱う水産物は、食卓にのぼる多くの食材をカバーしています。当社では、エビ・サーモン・マグロ・魚卵などの水産加工物を輸入・販売。社内で共有する情報収集力や商品開発力と三井物産グループの総合力を融合させながら、食料専門商社としての競争力を加速させていきます。

1 STABLE

食卓の「今」を守る。

天候不順、為替や国際情勢など変動リスクに対応しつつ、安全な商品を安定して食卓へお届けする。トレーディングの基本を堅持することは私たちに課せられた使命です。世界の需給を見極め、競争力のある商品を確保。消費者の大きな関心ごとになっている食の安全についても、現地生産者と一体となって取り組むとともに、社内には「商品開発・品質管理センター」を設置。当たり前のこととして食の安全・安心・安定を実現することは、食料専門商社だからできる社会貢献に他なりません。



2 CHALLENGE

変化を先駆け、未来をつくる。

食に求める消費者の想いは、時代の変遷やライフスタイルの変化とともにますます多様化しています。単に満腹感やおいしさだけでなく、安全性や環境への配慮、調理の便利さなど、より細分化される消費者ニーズにお応えするために、三井物産シーフーズ株式会社では川上・川下の双方でさまざまな施策を展開しています。例えば、現地に直接出向いて、生産効率の向上策や減農薬など環境管理について互いに検討。その新たな試みが、疾病に罹りにくく生産効率が上がる「ハーブシュリンプ」であり、大きく実を結びました。また、流通・販売や消費者にとっての付加価値を高めるために、商品加工なども工夫。今後は、食べ方の提案やレシピ紹介などにも積極的に取り組んでいこうと思います。



3 SAFE & SECURE

安全を守る独自の品質管理体制

“安全”は、多種多彩な水産物を提供する商社としての責任です。だからこそ私たち三井物産シーフーズ株式会社は、QA(クオリティ・アシュアランス)体制を徹底。厳しい自社基準を満たした世界20カ国以上、約300の取引サプライヤーのみを独自開発した「サプライヤー登録システム」に登録し一元管理。専門チームが現地工場に出向き、日本の法令に則った商品を製造しているか定期的な監査を実施しています。また、社内に有する「商品開発・品質管理センター」も、三井物産シーフーズ株式会社ならではの専門知識を持つスタッフによる徹底的な調査・検証を実施しています。健やかな暮らしを支える食だからこそ安全を第一に…その想いは、分社化以前の東邦物産1958年の創立以来、揺らぐことはありません。



取扱商材

世界中から、高信頼の商品を厳選



サーモン各種



加工品各種



青魚（ペラジック）



筋子・イクラ



マグロ



養殖魚



海老



天然魚



イカ・タコ



貝類



生鮮青果物(国産・輸入)



冷凍野菜・フルーツ

CHALLENGING TOPICS

ハーブシュリンプ

従来の養殖海老とは異なり、おいしさの源である飼料からこだわった海老です。海老本来の甘みとしっかりした食感が特徴で、インドの自然豊かな環境下で、こだわりのハーブを配合した飼料でのびのびと育っています。



おいしさだけじゃない、安心と安全

養殖の海老が健康に育つために不可欠な要素は大きく分けて①親海老②飼料③養殖環境の3つに分かれると言われています。ハーブシュリンプは①病気やウイルス等を保持していない健康な親海老をハワイから輸入し、②ハーブシュリンプのためにだけに配合された特別なハーブ飼料を給餌し、③低い密度で海老をのびのびとした環境で養殖しております。また、高塩分濃度

を保った海水で養殖を行っていることで、低塩分濃度の海水養殖海老と比べると旨味成分となるアミノ酸の含有量が多く、海老本来の甘み、旨味が味わえます。さらに、養殖した池から最終製品までのトレーサビリティも整備しており、味だけでなく、安心安全な最終製品のお届けを実現しております。

RQC

商品開発・品質管理センターでは、専門知識を持ったスタッフにより、工場の製造技術改善、品質管理向上に努め、安全・安心な商品提供すべく、サプライヤーとの協力のもと品質管理活動やお客様のニーズにお応えする新商品の提案などを行っています。



品質管理

国内外から受入した原料や製品における品質（理化学値・微生物検査など）を徹底的に調査・検証し、常に安全・安心な商品を顧客様へ届けています。なお、海外での生産時には当スタッフ陣による実地監査及び現場指導などを行っており、日本の品質規格及び衛生規格を満たした商品のみを輸入販売しております。

商品開発

お客様のニーズに合わせた商品開発に加え、弊社独自の視点の商品開発にも取り組んでおり、今後のさらなる自社ブランド商品作りにも積極的に挑戦していきたいと思っています。

品質管理

メーカー並みの
スキルで、消費者も
頷く品質管理を。



多種多様な水産物を取り扱う食料専門商社だからこそ、私たちはその安全・安心を現地の生産者やサプライヤー任せにしたいはありません。そのQA(クオリティ・アシュアランス)の徹底を牽引するのが、「商品開発・品質管理センター」です。商社の枠を超えた品質管理をめざして、HACCP(Hazard Analysis and Critical Control Point)やISO9001(品質マネジメントシステム)に沿ったお客様に満足していただ

く『顧客満足』管理手法を徹底して実践。スタッフはHACCPの研修に定期的に参加することでスキルを磨きながら、HACCP審査員の資格取得をめざしています。こうした食品メーカー並みの品質管理は一企業としてのコンプライアンス順守だけでなく、加工食品分野への参入をもめざす私たちが一般消費者からの信頼を得るために欠かせないものです。

「現場主義」の品質管理。
そして、商品開発という
新たな挑戦。



新しい商品の登録にあたって、まず実施するのが専門チームによる現地の生産地や工場の監査です。私たちは世界30カ国以上、約200以上の取引サプライヤーとの取引がありますが、この姿勢は一つとして変わることがありません。例えばエビ、サーモンなどの養殖池であれば、その水質や飼料及び抗生物の安全管理までを。加工工場であれば、規格商品の製造確認、検証、衛生

管理や指導を徹底して実践しています。「商品開発・品質管理センター」の新たな役割が、消費者目線を取り入れた商品開発です。

三国間貿易



三国間貿易も積極的に展開する、 三井物産シーフーズ株式会社。

三国間貿易とは、商材の輸出・輸入には直接かわらない第三国が、海外業者より商品を仕入れ、輸入者と商品売買契約を締結。商材は海外の業者から海外の輸入会社へ、直接輸出される貿易形態のことです。近年、多くの日本企業が現地生産化を展開しており、三国間貿易のニーズは日増しに増えています。荷受地から荷渡地まで低コストかつ安定輸送がメリットの三国間貿易は、私たちにとって新たな可能性を広げるビジネススタイルです。



培った信頼をもとに、 三国間貿易による輸出ビジネスも。

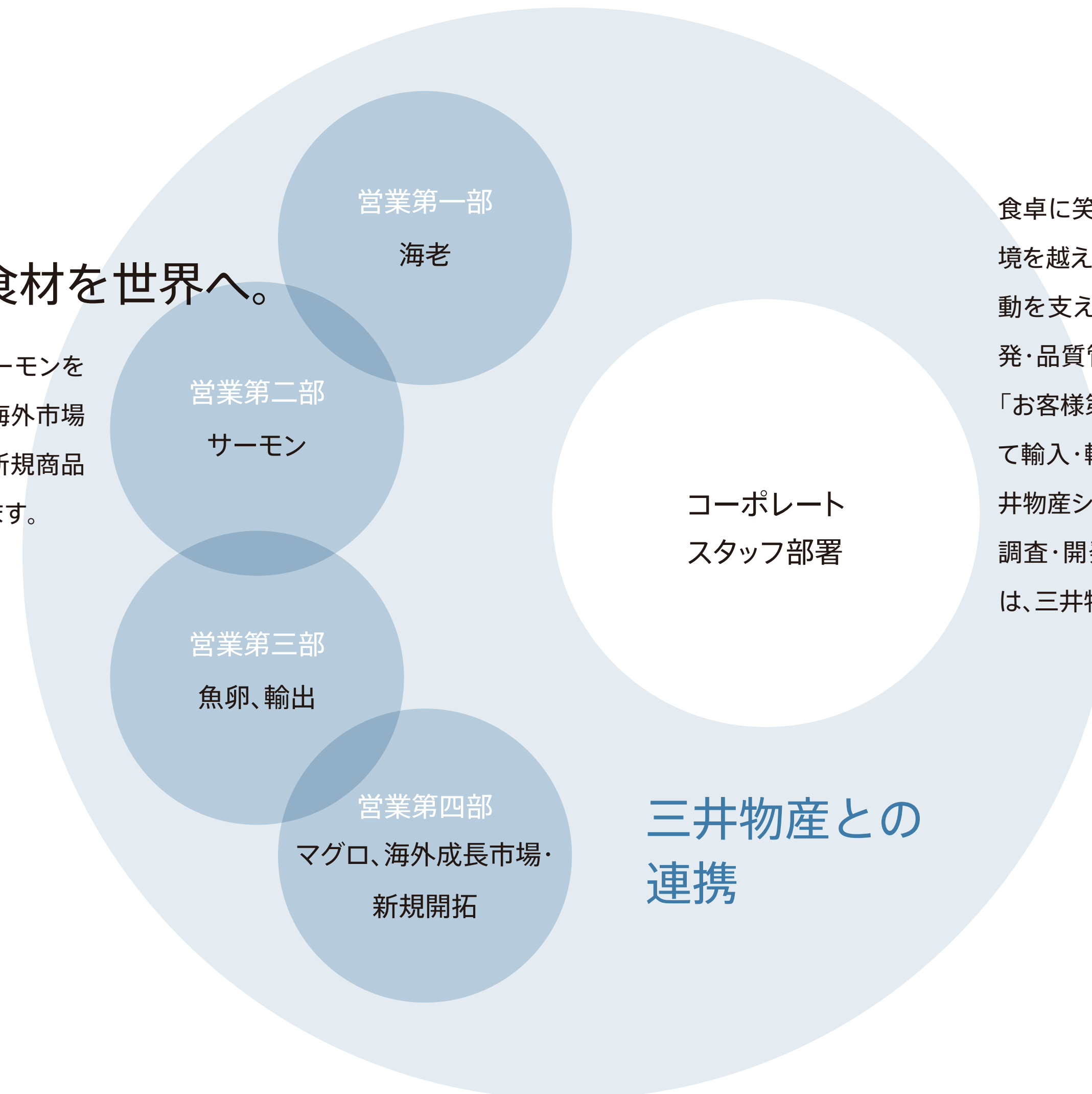
食品専門商社として私たちは、広く世界から安全・安心な水産物を輸入し、日本の食卓においしさをお届けしてきました。そして今、少子高齢化とともに国内需要の減衰が進む中、輸入のみならず輸出ビジネスにも積極的に参入していきます。その切り札となるのが三国間貿易です。このトレーディングは信用が第一。長年培ってきた食料専門商社としての信頼、三井物産グループの一員ならではの信用、そして品質管理や加工技術でのジャパン品質の確かさ。これらのリソースをもとに、例えばエクアドル産のエビを中国に輸出するなど、産地加工の水産物をアジア諸国や北米、ヨーロッパへ。その取扱高が、年を追って拡大しています。

組織概要

当社は、エビ商品取扱いを主体とした営業第一部、サーモンを取扱う営業第二部、魚卵や、海外市場向け商品開発から共有までサポートする営業第三部、マグロ、その他の成長市場拡大を目指す営業第四部で構成されています。

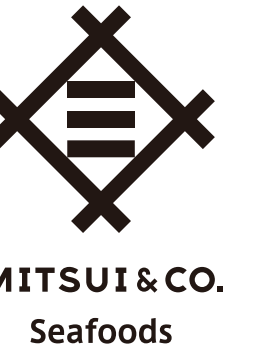
プロの目利きで選んだ 安全で安心の美味しい食材を世界へ。

エビ商品取扱いを主体とした営業第一部、サーモンを主要取扱いとする営業第二部、魚卵、その他、海外市場向け商品などを取扱う営業第三部、マグロや新規商品開発を対象とした営業第四部で構成されています。



食卓に笑顔と元気をお届けしたいという私たちの想いは、今日も国境を越えて広がっています。そうしたダイナミックなトレーディング活動を支えているのが、業務部、経理・リスクマネジメント部、商品開発・品質管理(RQC)を担当する各コーポレートスタッフ部署です。「お客様第一主義」、「現場主義」を掲げながら、半世紀以上にわたって輸入・輸出ビジネスを、そして三国間貿易を積極的に展開する三井物産シーフーズ株式会社の縁の下の力持ちです。なかでも食品の調査・開発や現地監査などを担う「商品開発・品質管理センター」は、三井物産シーフーズ株式会社ならではの専門部署です。

沿革



1947(昭和22)年 5月	戦前の三井物産の有志を中心に旧東邦物産(株)(資本金75万円)設立。 同年7月のGHQ財閥解体政策の一環により解体された三井物産から社員80名が旧東邦物産(株)に参加。
1958(昭和33)年 7月	旧東邦物産(株)設立 翌年の「三井物産」大合同を前に、旧東邦物産(株)が第一物産と合併するに当たり、旧東邦物産(株)より一部営業譲渡(ソ連東欧圏商内及び輸入枠割当商内)を受け現東邦物産(株)(資本金1億円)を設立。
1960(昭和35)年 3月	第一通商(株)よりソ連・東欧関係営業継承。
1960(昭和35)年 12月	本店を中央区日本橋より千代田区内幸町に移転。
1965(昭和40)年 6月	木下産商(株)よりソ連・東欧関係営業継承。
1965(昭和40)年 11月	ソ連・東欧関係営業の一部を三井物産(株)へ譲渡。
1968(昭和43)年 3月	子会社東邦水産(株)を設立。
1970(昭和45)年 8月	資本金4億円に増資。
1972(昭和47)年 1月	本店を千代田区内幸町より港区新橋に移転。
1993(平成 5)年 11月	本店を港区新橋より港区三田に移転。
1996(平成 8)年 5月	本店を港区三田より港区芝公園に移転。

2004(平成16)年 4月	東邦水産(株)及び北海シーフーズ(株)と合併。
2005(平成17)年 4月	三井物産(株)よりサーモン事業移管。
2005(平成17)年 5月	三井物産(株)より青果事業移管。
2007(平成19)年 4月	(株)物産ライスと合併。
2007(平成19)年 7月	三井物産(株)より食肉事業移管。
2011(平成23)年 4月	三井物産(株)より水産事業全面移管。
2022(令和 4)年 7月	旧東邦物産株式会社から水産部門を三井物産シーフーズ株式会社として分社化。

* 旧三井物産は、GHQの指令により1947年に解散したことから、法的には、旧三井物産と現在の三井物産は継続性はなく、それぞれ全く個別の企業体である。

会社情報



商号	三井物産シーフーズ株式会社 Mitsui & Co. Seafoods Ltd.
設立	2022年7月1日
資本金	3.1億円
事業内容	水産物(エビ、サーモン、魚卵、鮭など)の輸出入、 三国間貿易及び国内販売
本社所在地	東京都港区芝公園2-4-1 芝パークビル A館8階 TEL: (03) 3438-2100 FAX: (03) 3438-5740 E-Mail: gyomu@mitsui-seafoods.com
従業員	103名(2023年6月1日現在)
株主	三井物産(株) 100%
主要取引銀行	(株)三井住友銀行、(株)みずほ銀行

本社

〒105-0011
東京都港区芝公園2-4-1 芝パークビル A館8階
TEL: 03-3438-2100(代表)
FAX: 03-3438-5740
E-mail: gyomu@mitsui-seafoods.com

札幌営業所(営業第二部)

〒060-0002
北海道札幌市中央区北2条西4丁目1番地
札幌三井JPビルディング19階



三井物産シーフーズ株式会社
Mitsui & Co. Seafoods Ltd.